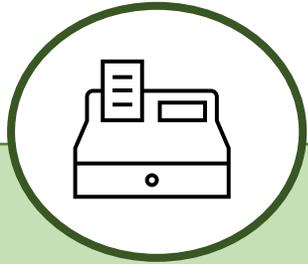


公民館使用料導入に係る収納方法の検討について



収納方式の選択

人的対応による
レジ方式
と
機械対応による
券売機方式

※作業の効率化、コスト、
安全性の比較により
導入方式を選択



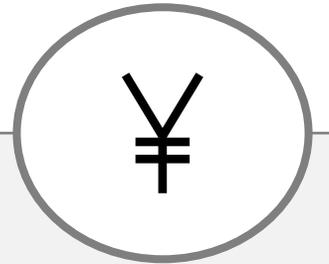
導入機器の選択

導入機器の特徴、公民館
の施設特性、利用者特性
等を考慮し、導入機器を
選択



取扱紙幣の選択

公民館の施設特性、利用
者特性、コスト、防犯対
策等を考慮し、取扱紙幣
を選択



決済方法の選択

キャッシュレス決済の導
入を検討

※公民館の利用者属性、
手数料等のコスト、
管理のしやすさ、
防犯対策の必要性等
を比較して選択

収納方式の選択

	レジ方式	券売機方式
事務作業量	<p>×</p> <ul style="list-style-type: none">・貸出しの際、現金の受領と領収書の作成作業等が発生・利用者の待ち時間が発生・日々の収納事務等が発生	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none">・大きな事務作業等の追加は発生しない。
人件費	<p>△</p> <ul style="list-style-type: none">・事務作業の発生に伴い、委託館の運営委託料の増額・夜間、土日祝の管理委託料の増額 <p>※委託料は別途、受託者との調整が必要</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none">・委託館の運営委託料の軽微な増額・夜間、土日祝の委託料の軽微な増額 <p>※委託料は別途、受託者との調整が必要</p>
機器導入費	<p>△</p> <p>レジ導入コスト</p> <p>※導入費は方式により異なる</p>	<p>△</p> <p>券売機導入コスト</p> <p>※年間150万円～250万円程度</p>
安全性	<p>×</p> <ul style="list-style-type: none">・現金の受領が発生する。・夜間等の人員体制が課題となる。	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none">・施錠して職員が保管することで、安全性は確保できる。・1人態勢の場合は、防犯灯の設置など、安全対策が求められる。

導入機器の選択

	タッチパネル方式	ボタン方式
機器の種類		
特徴	<ul style="list-style-type: none">・飲食店での導入が主流（特に大手）・外国語対応が可能・ボタン位置のカスタマイズが可能・視覚による商品選択が可能・発券の種類が多岐にわたる場合など、直観的に操作しやすい	<ul style="list-style-type: none">・タッチパネル方式と比較すると、イニシャルコストは低い・多くの公共施設で導入実績がある。・発券の種類が限定されている場合、ボタンを選びやすい。・メンテナンスしやすい
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・イニシャルコストが高額・1回/5年程度、機器の入替えが必要・相当額の維持管理費が発生・仕様変更の際、高額なメンテナンス費用が発生・壊れやすい	<ul style="list-style-type: none">・多言語対応が難しい

取扱紙幣の選択

	高額紙幣対応機	高額紙幣対応機	低額紙幣対応機
紙幣の種類	千円札 二千円札 五千円札 一万円札	千円札 二千円札 五千円札 一万円札	千円札 二千円札
利便性	高い	高い	標準的
維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 紙幣詰まり、釣銭切れなどのトラブルが起きやすい。 トラブル解決までに時間を要する。 土日夜間などのトラブルに対応しづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙幣詰まり、釣銭切れなどのトラブルが起きやすい。 トラブル解決までに時間を要する。 土日夜間などのトラブルに対応しづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> 高額紙幣機と比較してトラブルは少ない。
釣り銭	<ul style="list-style-type: none"> 釣り銭を多く準備する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 釣り銭を多く準備する必要がある。 五千円札の対応不可 	<ul style="list-style-type: none"> 小銭の準備で足りる。
機器設置コスト ※保守管理費別途	年220万円程度（5館）	年200万円程度（5館）	年130万円程度（5館）

決済方法の選択

	現金対応方式	キャッシュレス対応方式 ※主に二次元バーコード
使いやすさ	○ ・一般的に広く導入されている。	◎ ・複数の決済方法により利便性が向上
管理のしやすさ	○ ・飲食店等において、広く導入されている。 ・釣銭切れ対策、防犯対策等が必要 ・収納額と現金は一致する。	○ ・全てキャッシュレス対応とした場合、現金管理が容易になる。ただし、併用の場合は現金対応方式と同程度 ・決済額の反映に一定期間を要する。
ランニングコスト ※機器リース料除く	◎ ・特に発生しない。	△ ・1件当たり2%～3%弱の手数料が発生 ・初期導入費用が発生 ・月額のリターン使用料が発生
防犯対策	△ ・1人態勢の場合は、防犯灯の設置など、安全対策が求められる。	○ ・全てキャッシュレス対応とした場合、釣銭切れ、窃盗などのトラブルが軽減される。ただし、併用の場合は現金対応方式と同程度
設置期間	○ ・発注から1か月程度	△ ・発注から2か月半から3か月程度 ※キャッシュレス端末を接続しなければ、期間の短縮が可能